

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふりがな 氏名	いまの 今野 たいぞう 泰三
(研究テーマ名) パレスチナにおけるイスラーム系NGOの活動・効果に関する基礎研究 —日本の市民社会とイスラーム系NGOの連携に関するヴィジョン・方策の作成に向けて—	
(研究活動実績) <p>本調査は、トヨタ財団の研究助成を受け、占領下のヨルダン川西岸地区とガザ地区において、どのようにパレスチナ人の主導する地元組織が住民の貧困や栄養不足を解決するための活動を展開しているか調査を行った。特に、「イスラーム」を看板に掲げる組織を中心に、その思想的・政治的・社会的背景の理解と、実際の活動と職員・受益者のナラティブに関する調査を進めた。</p> <p>軍事占領が続くヨルダン川西岸地区と、陸・海・空を封鎖されて日々空爆に晒されるガザ地区での調査は困難を極めたが、そうした中でも、国際協力NGO 日本国際ボランティアセンター職員という立場を活かし、4つの地元援助団体で現地調査と聞き取りを行うことができた。結果、地元団体を介して実施される国際的な人道支援が、本来は中立・普遍的であるべきにもかかわらず、政治的な意味と役割を負わされていることが分かった。その背後には、一方にイスラエル国家の承認をパレスチナ人に迫り、イスラーム主義を反欧米的・暴力的と見なす欧米諸国とイスラエル政府、他方にはイスラエル国家を欧米帝国主義の傀儡と見なすイラン政府、シリア政府、および湾岸諸国の支援者の間での国際的な冷戦状態が垣間見えた。このように政治性を持つ国際援助の流入が、大多数がイスラーム教徒であるパレスチナ人に「イスラーム」か「非イスラーム」という選択を強要させ、パレスチナ社会の分裂と対立を煽るといふ負の効果をもたらしているようであった。</p>	